



「何をしなかったか」も大切である!!

今年もあと10日余りで新年を迎えます。生徒の皆さんは、1年を振り返って自分が頑張ったこと、できるようになったこと、成長したことなど、たくさんあると思います。

私の家の新聞に、1年のいいこと、悪いことを思い出して、「何をしたか」ではなく「何をしなかったか」も大切であると書かれてありました。例えば、



【1年大根収穫・天日干し】

- ・「学校に遅刻しなかった」
- ・「ウソをつかなかった」
- ・「人の心を傷つけないかった」
- ・「差別しなかった」

などになります。

今年1年、自分が「何をしなかったか」で、記憶に残っていることがありますか。皆さんは、多分、すぐに思い浮かばなかったことでしょうか。思い浮かばないのは、「何をしなかったか」は、「当たり前」のことばかりだからではないのでしょうか。「してはならないことをしない」そして、「やるべきことをやる」ことは、とても大切なことで、価値があると思います。

ところで、津奈木中には、学力面で大きな課題があります。それは、

- ・「宿題や提出物を出さなかった」
- ・「家庭学習をしなかった」
- ・「テスト勉強を本気でしなかった」

などの生徒の割合が高いことです。私たち教師の責任もありますが、「しなかった」では、済まされません。



私の先輩は、課題の提出期限に遅れて大学を卒業できず、1年分の時間とお金(約200万円)が追加となり、大変後悔されていました。

中学校では、家庭学習1日2時間以上(最低でも1時間)を目標にしています。目標を達成するためには、楽をしたい自分、遊びたい自分に負けてはいけません。人生は他人との勝負ではなく、自分との戦いなのです。

道徳教育や音楽教育の公開授業

12月14日(木)に、県教育委員会から2年間、津奈木小・中学校が道徳教育の指定を受け、1年目の公開授業を、津奈木中で開催しました。

当日は、小学5年を山内先生、中学1年を村崎先生が、道徳科の授業を行いました。授業では、体験活動と関連付けた導入や終末、ハートつなぎタイムの設定(考え、議論する道徳)などを公開しました。授業中の生徒の姿や、下校する2・3年生の立ち止まっただけの挨拶に、お褒めの言葉をいただきました。

また、11月28日(火)には、県音楽教育研究会芦北水俣大会が津奈木中で開催され、3年生の音楽の授業を矢野先生が体育館で行いました。3年生の歌声や発表、態度、姿勢に感動され、多くの参加者から「素晴らしい」の言葉をいただきました。

修学旅行、座禅体験して班別自主行動

2年生は、12月3日(日)から2泊3日で奈良・京都・大阪方面へ修学旅行に行ってきました。

新型コロナウイルス感染症が5類となり、京都市での班別自主行動やUSJでの班行動が可能となり、生徒の主体的な活動ができました。また、以前のように外国からの観光客の方が多くなり、どこに行っても外国人だらけでした。



【2年修学旅行 東大寺】

さて、2日目の班別自主行動前に、光雲寺で座禅体験をしました。住職様からは、「座禅は、姿勢を正し、呼吸や心を整えることにより、雑念を払うことができる」「心が落ち着き、自由な心の動きで、力が発揮できる」「人間は考える生き物だが、メリットばかりではなく、心がみだれるというデメリットもあるので、座禅が必要である」などの貴重な説法をいただきました。

保護者の皆様のご理解と送り迎えなどのご協力により、修学旅行を無事に実施でき、感謝申し上げます。

月日が経つのは早いものですが、特に中学校の1年間はあっという間に終わります。また、勉強やスポーツ、文化、そして考え方や規範意識、道徳性など、心身共に大きく成長する大事な時期でもあります。生徒の皆さんには、「努力して、きつかったけど楽しかった」と思ってほしいです。

さて、音楽や道徳の研究発表会では、参加者から「津奈木中の生徒の学ぶ姿や態度は、素晴らしい」「県駅伝大会開会式での、津奈木中の挨拶や返事は一番良かった」などの言葉をいただきました。「生徒の姿で勝負」と、私たち教師はよく言いますが、生徒たちに感謝、感謝です。

